

構造材プレカット仕様書①

受付日： 年 月 日 更新日：2020/8/25

株式会社 万代
プレカット野田工場

〒278-0011 TEL 04-7138-3211
野田市三ッ堀1300-10 FAX 04-7138-3933

営業	CAD
羽柄PC	有) 加工する部品に○ 垂木/筋違/間柱/根太/窓材/間受 その他()
有・無	
合板PC	有 (床/野地/壁) ・ 無
金物納品	有) 現場納品する部品に○ 羽子板/六角ボルト/座金/鋼製火打 登梁用金物/筋違金物/HD金物
有・無	
金物手配	プレカット・ 柏本社・ つくば・ 海老名

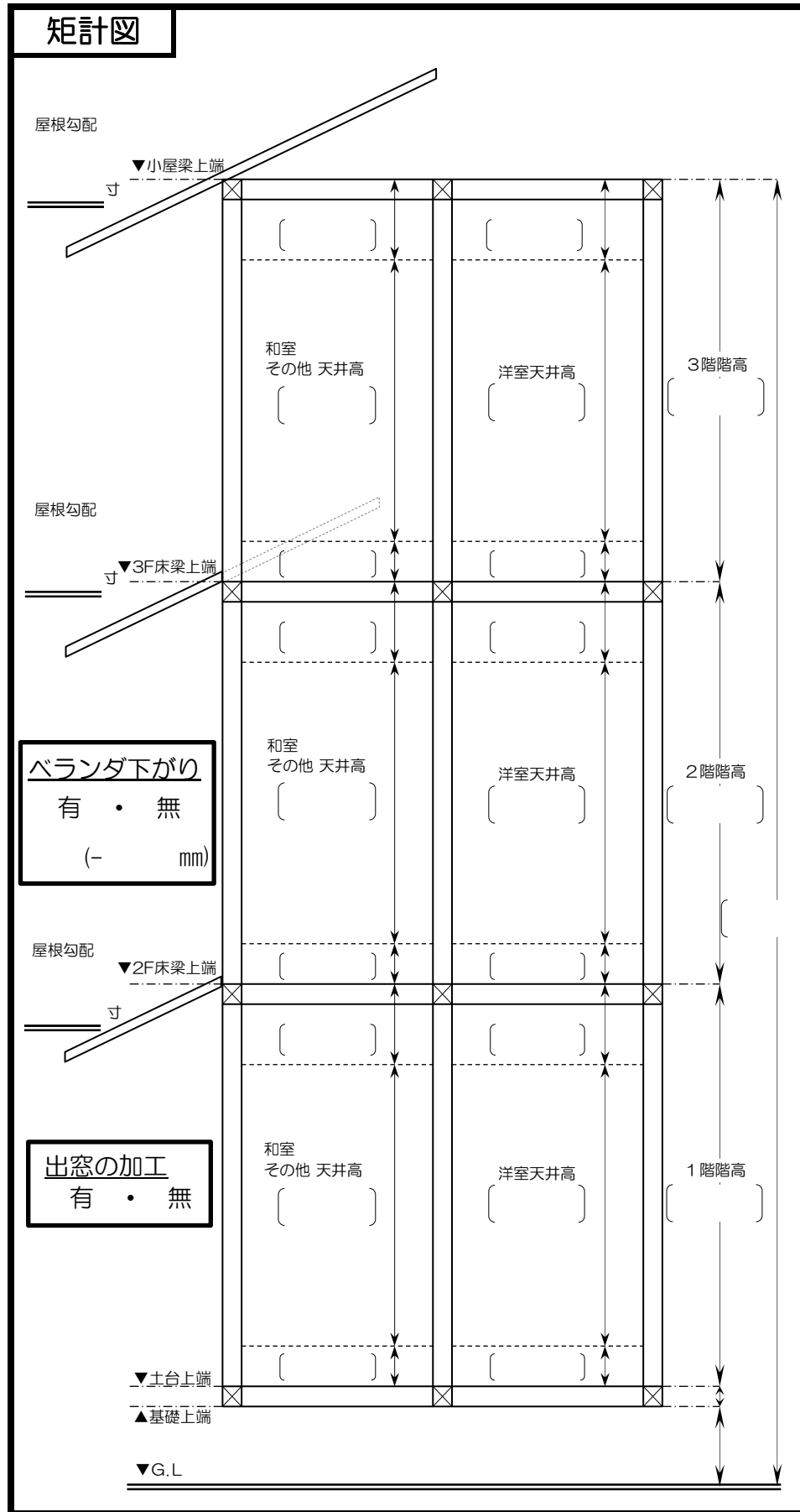
お客様名	ふりがな	様	面積	坪
現場名	ふりがな	様	延床	坪
上棟予定			はね出し ポーチ 車庫	坪
搬入予定			吹抜け	坪
問合せ先	様 御担当: 様		TEL:	FAX:
			Email: _____ @ _____	
モジュール	900 ・ 909 ・ 910 ・ 1000		* 入力後のモジュール変更は出来ません。	
計算オプション	構造に関する計算(N値・壁量・断面算定・性能表示壁量計算)		不要 ・ 要 (有償となります)	

材料仕様

*計算オプションが要る場合、別紙 打合せシートも記入下さい。

部材	幅×高	樹種	等級	部材	幅×高	樹種	等級
土台	×			大壁通柱	×		
火打土台	×			真壁通柱	×		
大引	×			大壁管柱	1F	×	
床梁	正角	×			2F,3F	×	
	平角	×			隅柱	×	
小屋梁	正角	×		真壁管柱	1F	×	
	平角	×			2F,3F	×	
火打梁	×				隅柱	×	
登り梁	×			大黒柱	要	×	
母屋・棟木	×				加工要 (ホゾのみ) ・ 加工不要 (材のみ)		
隅木	×			不要		穴のみ ・ 要仮柱	
小屋束	×			ポーチ柱	×		
化粧材	部材	樹種、寸法	仕上げ等	下端長さ：伸ばし(_____ m拾い) ・ カット(土台上端 _____ mm)			
	梁・桁			ベランダ束	×		
	母屋・棟木			長さ：ベランダ 梁上 ~ _____ mm [備考： _____]			
	柱			はねだし下端(隅)の吊束 [不要・要(梁上~吊束下 _____ mm)]			
	束			合板受材	部材寸法	角	樹種
[仕上げ種類] ・サッター ・プレーナー ・超仕上げ ・仕上げ無し	火打			端部加工	蟻・大入	金物	要・不要
	他			材巾90未満は根太の仕様でご指示ください			

- * 梁成 450・梁巾 150 を超える梁、全長が 6m を超える梁は、1 本毎に別途加工代が掛ります。
- * 妻側の小屋束は梁幅と同寸とします。また、外周部の母屋も梁と同寸幅とし、外面を揃えます。
- * 床合板 (剛床 24/28mm等) 使用の場合、その下部には基本的に火打ち梁は入れません。必要な場合はご指示ください。
- * 化粧材の仕上げをしない場合でも、木材の性能表示シールや、仕入れ段階での刻印をとる場合は仕上代が掛ります。
- * KD材(特等ムク材)を化粧仕上げする場合、ムク材 故に節や小割れの状態は選べません。
また、米松などの 規格寸法(JAS製品)の材を仕上げる場合、幅高 共に分切れします。
- * 丸柱や太鼓梁などは 機械投入できないため、手加工(有償)となります。現場にて加工する場合はご指示下さい。



屋根仕様			
下屋		上屋	
野地合板	mm	野地合板	mm
垂木	×	垂木	×
垂木ピッチ	@	垂木ピッチ	@
各階床仕様			
3階 洋室・ロフト		3階 和室/その他床	
フロア		畳/仕上	
床合板		床合板	
根太		根太	
床仕上高		床仕上高	
根太彫深さ		根太彫深さ	
根太ピッチ		根太ピッチ	
2階 洋室・ロフト		2階 和室/その他床	
フロア		畳/仕上	
床合板		床合板	
根太		根太	
床仕上高		床仕上高	
根太彫深さ		根太彫深さ	
根太ピッチ		根太ピッチ	
1階 洋室		1階 和室/その他床	
フロア		畳/仕上	
床合板		床合板	
根太		根太	
大引		大引	
床仕上高		床仕上高	
大引レベル		大引レベル	
大引彫深さ		大引彫深さ	
火打彫深さ		火打彫深さ	
根太彫深さ		根太彫深さ	
根太ピッチ		根太ピッチ	

備考欄

構造材プレカット仕様書②

現場名			
構造金物用の加工		物件の工法 ・ 在来工法 ・ 在来一部金物工法 ・ 金物工法 [金物工法タイプ:]	
在来工法部金物工法	胴差引合方法	羽子板引き・角穴引き・金物工法	金物工法
	ホルダウの穴あけ	不要・要※ (____ kN以上)	
	角穴両引のホリ装填	不要・要※	
	土台プレート取付	不要・要	
	部材に使用ボルトの長さを表記	不要・要※ 梁抱合せ部・縦かんざし部	
* 上記は、該当箇所がある場合に行います。(※は有償となります) * 角穴両引のホリ仕込は、L:330.L:420 のホリのみです。		1階床組工法 在来工法 ・ 金物工法(プレカット) 小屋組みの継手 鎌継ぎ ・ 柱勝たせ * 金物工法の物件でも1階床組は在来工法、小屋組みの継手は鎌継ぎが、プレカットの標準仕様となります。 * 金物工法の仕口には、横架材巾105以上必要です。 * 金物工法のタイプを混在したり、金物の種類が増えるとそれに伴い加工代が増しになります。 * 1階床組を金物工法にする場合、基礎設計から考慮する必要があります。基礎の条件は、別紙“アソ配置図”を参照下さい。※弊社で基礎の設計はいたしません。 * 小屋組みの継手を柱勝たせにする場合、垂木の納まりに伴い、別途加工代が掛る場合があります。	
共通 * 土台にアソボルトの穴あけはいたしません。* 物件毎の納まりについてはプレカット図面での質疑にご回答をお願いします。			

土台継手位置	* 土台継手位置をご指示下さい。納まりによってはご希望にそえない場合があります。		
* 土台の継手は、特に指定がない場合、右図の寸法にて“鎌継ぎ”の加工をいたします。	プレカット標準寸法 	* 土台継手位置を指定される場合は右に図示をお願いします。	

通柱・隅柱の芯寄せ、段差処理		* 通柱・隅柱が、基本の躯体の巾より大きい場合 ご指示ください。				
大壁	芯合わせ	シャクリ	要	外側角全て	* 特殊なシャクリは図示をお願いします	* 真壁柱を芯寄せすると、廻縁欠きがされません。 * 芯寄せ方向、シャクリの位置及び寸法は、 <u>平面図</u> に記入して下さい。
	内面合わせ			内側角全て		
	外面合わせ			内側入隅のみ		
真壁	芯合わせ	不要	戸袋			
	内面合わせ		サッシ			
	外面合わせ					

ケラバカット	ケラバ落とし (不要 ・ 要 下記ご指示下さい)	
カット寸法		
	水平カット	斜めカット
	落とし残し寸法 	落とし残し寸法

* 斜めカットをする場合、垂木の成が大きいと、母屋の残しが小さくなる場合があります。カットライン考慮下さい。
* ケラバを横垂木で伸ばす場合には、母屋は躯体外面でとめます。又、妻側に登り梁が必要となります。(要打合せ)

備考欄	

間柱欠き		* 欠幅は、30mm以上となります					
大壁	上	通し欠き・無し・穴	基本欠巾	真壁	上	通し欠き・無し・穴	基本欠巾
	下	通し欠き・無し			下	通し欠き・無し	
壁合板受材		不要 ・ 要 [欠巾: ____ mm、ジョイントピッチ @ ____]					
床合板(剛床)と間柱の下端部とりあい	プレカット標準仕様		* 床合板を貼り被せる部分にも、土台、梁上端に間柱欠きをするか (不要 ・ 要)				
	<input type="checkbox"/> 床合板を勝たせ、床合板上の間柱下端は合板に突き付ける。(外周部はパッキン材が必要)		<input type="checkbox"/> 床合板を勝たせ、外周間柱下端を合板に合わせてL型に欠き取る。(間柱の欠き取りは有償)				
	<input type="checkbox"/> 間柱を勝たせる。(床合板に間柱角抜き)		階により納め方が異なる場合、その旨ご指示ください。				

根太彫に関する詳細事項		* 根太彫りの有無等は、仕様書①の各床仕様にて判断いたします。	
床合板捨て貼り(12mm等)のための根太彫	根太彫りの下に火打をつける	不要 ・ 要 (下げた火打が納まる梁成が必要)	
剛床(24mm28mm等)の合板受けとしての根太彫	間仕切りや床下がりの際根太のクリアス	横架材面から根太側面まで ____ mm	
共通事項	合板短手方向に根太を入れる際に重視	工コな梁組を重視 ・ 床合板の割付けを重視	
	床下がりの際根太	材のみ・内面の長さでカット・根太彫りして納めるカット	
共通事項	横架材成に対し根太彫量が多い場合(90度合板受けなどの大入仕口にも適用します)	<input type="checkbox"/> 成を大きくする	
		<input type="checkbox"/> 彫りを浅くし根太に刃をつける	

その他			
屋根(垂木、野地)が外壁面に接合する部分での、外壁面材用のクリアス	不要 ・ 要 (____ mm)		
外廻りの最少梁成指定	指定無し ・ 指定有り (外廻り梁成 ____ mm以上)		
2階以上の浴室の床組み	不要(吹抜け) ・ 要 (梁パル: ____ mm / 床合板: 不要・要)		

真壁柱ならびに化粧柱の加工と仕上げ		* 真壁和室がある場合、以下の項目は全てご指示ください。			
化粧柱仕上げ種類		真壁和室の納まり	内法高 ____ mm	内法材W寸法 ____ mm	
サンダー仕上げ	超仕上げ	超仕上げ+ 鉋仕上げ	廻縁欠	不要・要	和室 [一重・二重]
			一重…45mm/二重…90mm	床の間 [一重・二重]	
		仏間 [一重・二重]	広縁 [一重・二重]		
		貫穴	不要・要	ボードシャクリ	不要・要
		額縁シャクリ	不要・要	巾 ____ mm	額縁チリ ____ mm
		床間、仏間奥壁	大壁・真壁		
		チリの大きさ (チリ…和室壁仕上げ面~柱大面まで)	____ mm		
		チリが25mmを超える場合、仕上げ代が別途かかります			
化粧柱の面取り		下記の寸法が貫、シャクリのプレカット標準加工寸法となります。 左記以外の貫、シャクリ加工は、下図に記入して下さい。			
化粧柱の面取りは、仕上種類や面の大きさで加工代が変わります。下図の寸法が柱の種類毎に必要なになります。ご指示下さい 糸面…1mm未満、以降5mm刻みの加工代					
(____)mm 和室真壁柱 洋室化粧柱 大黒柱 ホー化粧柱 毎		* 大黒柱等の上端にリを付ける加工は別途加工代が掛ります。 * 大黒柱の加工がある場合、背割方向等もご指示下さい。			

羽柄材・パネル プレカット仕様書

平成 年 月 日

株式会社 万代
プレカット野田工場

〒278-0011
野田市三ツ堀1300-10

TEL 04-7138-3211
FAX 04-7138-3933

お客様名	ふりがな	様	現場名	ふりがな
上棟予定			搬入予定	

垂木	寸法	mm × mm	樹種	寸法	mm × mm	樹種
	墨線	30mm	指定ない限り垂直切断といたします	* 急勾配や成が大きい垂木は加工できない場合があります。		
	墨線	30mm		* 垂木と隅木は連動する為、相互で納まりを判断します。 (例：垂木成が大きい場合隅木の成も大きくなります。)		
	墨線	30mm		* 垂木が梁に掛る部分は、左図のように芯から外に30返した位置を標準としています。 変更する場合、ご指示ください。[芯~30→芯~ mm]		
	垂直切断	直角切断	片流れ水上	* 梁成が150より大きい平角の隅木は別途加工代がかかります。【加工必要・材のみ】		
				* 異勾配の隅木(平面45°以外)を加工する場合別途加工代がかかります。【加工必要・材のみ】		
				* 化粧垂木の加工は打合わせが必要です。		
				* 垂木が2層になる場合などは、野地の欄に図示下さい。		

根太	1F	寸法	mm × mm	樹種	備考
合板受	2・3F	寸法	mm × mm	樹種	要 ・ 不要 ※
	ロフト	寸法	mm × mm	樹種	
転がし根太の加工 * 横架材上に転がしで納める根太を加工するか					要 ・ 不要 ※
* 横架材に対して渡り材の状態となる根太については、欠き残し量は計算上20mm以下であっても20mm残します。(右図)					
* 床合板は、根太に対して合板長手が直交するように割付いたします。					

筋違	寸法	mm × mm	樹種	* プレカット図面筋違向き：柱頭	柱脚
* 加工可能角度は13.5° ~ 40° 迄です。(右図) それ以外の角度は、直角に長さのカットのみとなります。					
* 上下横架材がない場合や、バルが現場合わせの場合、丸柱や、柱に斜めに接合する部分などは、材のみ納品となります。					
				右図範囲外の角度は必要材長にて直角切断となります	

間柱	大壁	寸法	mm × mm	樹種	寸法	mm × mm	樹種
	真壁	寸法	mm × mm	樹種	寸法	mm × mm	樹種
開口部の間柱の加工 上下ジャストカット・上下ラカット・上下共加工不要 ※ ・ サッシ開口無視(1本で加工)							
* 開口部間柱を上下ジャストカットする場合、 全ての開口部の内法高と開口の寸法を平面図に記入して下さい							
プレカット図の開口部表記は内法高 * 開口寸法 (FL~まぐさ下) * (窓台上~まぐさ下) となっています。				* 筋違欠は残量が10mmに満たない場合、15mmの印欠きとなります。残りは現場カットをお願いいたします。			
				* 筋違角度が加工可能範囲外の場合は、間柱に筋違欠きされません。			
				* 間柱の端部形状は、仕様書②間柱欠きの仕様により判断いたします。			
真壁の間柱	間柱で真壁のボードを受ける場合の“際間柱”の加工			不要 ・ 要 (梁、窓材への加工は突き付けのみとなります)			
* 真壁の開口部間柱をジャストカットし、敷居・鴨居を直接施工する場合は、間柱端部の高さで開口の寸法ご指示下さい。 * 間柱の上下に化粧梁がある場合、化粧梁の見え方を考慮し間柱の端部形状を、突き付けに変更します。							

野地	寸法	□ 910 × 1820 × 12 mm	実	有・無	その他	×	×	mm	
		□ 1000 × 2000 × 12 mm			材種				
実合板軒先メスカット * 軒先1枚目下端の実(メス)をカットするか 要 ・ 不要									
釘墨線の印字 * プレカット合板面に、垂木に乗る(釘を打つ)墨線を印字するか(有償) 要 ・ 不要									
先端の伸び返り指示	[軒先部]			[妻先部]			備考 特殊な納まり図示(二重野地等)		
	垂木先端より mm 返り・出 (水平・勾配)			母屋・桁先端より mm 返り・出					

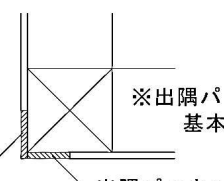
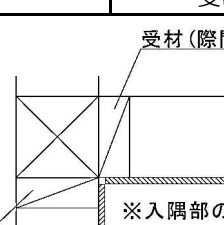
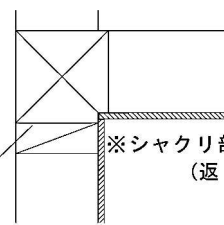
窓台	大壁	寸法	mm × mm	樹種	真壁	寸法	mm × mm	樹種
窓まぐさ		* 窓材は、基本として柱間での加工となります。 * 端部に柱が無い場合は、芯まで伸ばした状態で納品いたします。						
間柱受け	大壁	寸法	mm × mm	樹種	他	寸法	mm × mm	樹種
間柱受け		柱材への加工 突付けのみとなります			間柱の加工 突付け・欠き(深さ6mm)			
* 間柱受けは、柱間で床合板の上に置いて使用します。								

床合板	寸法	□ 910 × 1820 × 12 ・ 24 ・ 28mm	実	有・無	その他	×	×	mm
		□ 1000 × 2000 × 12 ・ 24 ・ 28mm			材種			
割付領域 プレカットする部屋仕様に○使用する合板厚を記載								
		1F	2F	3F	他	筋違の角抜		
		洋室	洋室	洋室	パナダ	有 * 土台梁上に直に立ちます。 無 * 合板上端から立ちます。(外周パナダ部も同じ納まりとなります)		
		和室	和室	和室	ロフト			
釘墨線の印字 * プレカット合板面に、横架材に乗る(釘を打つ)墨線を印字するか(有償) 要 ・ 不要								
合板割付方法	□ 横架材側面(捨て貼り等)			□ 横架材中心(剛床)			* 左図パナダの部分、間柱を伸ばしLの形にする場合、仕様書②の間柱欠きの欄で☑下さい。(有償となります)	
							* 間柱を勝たせ、床合板を角抜きする場合も間柱欠きの欄を☑下さい。	
* 間柱は、梁上端から立ちます * 間柱は、合板上端から立ちます。 外周部はパナダを使用								

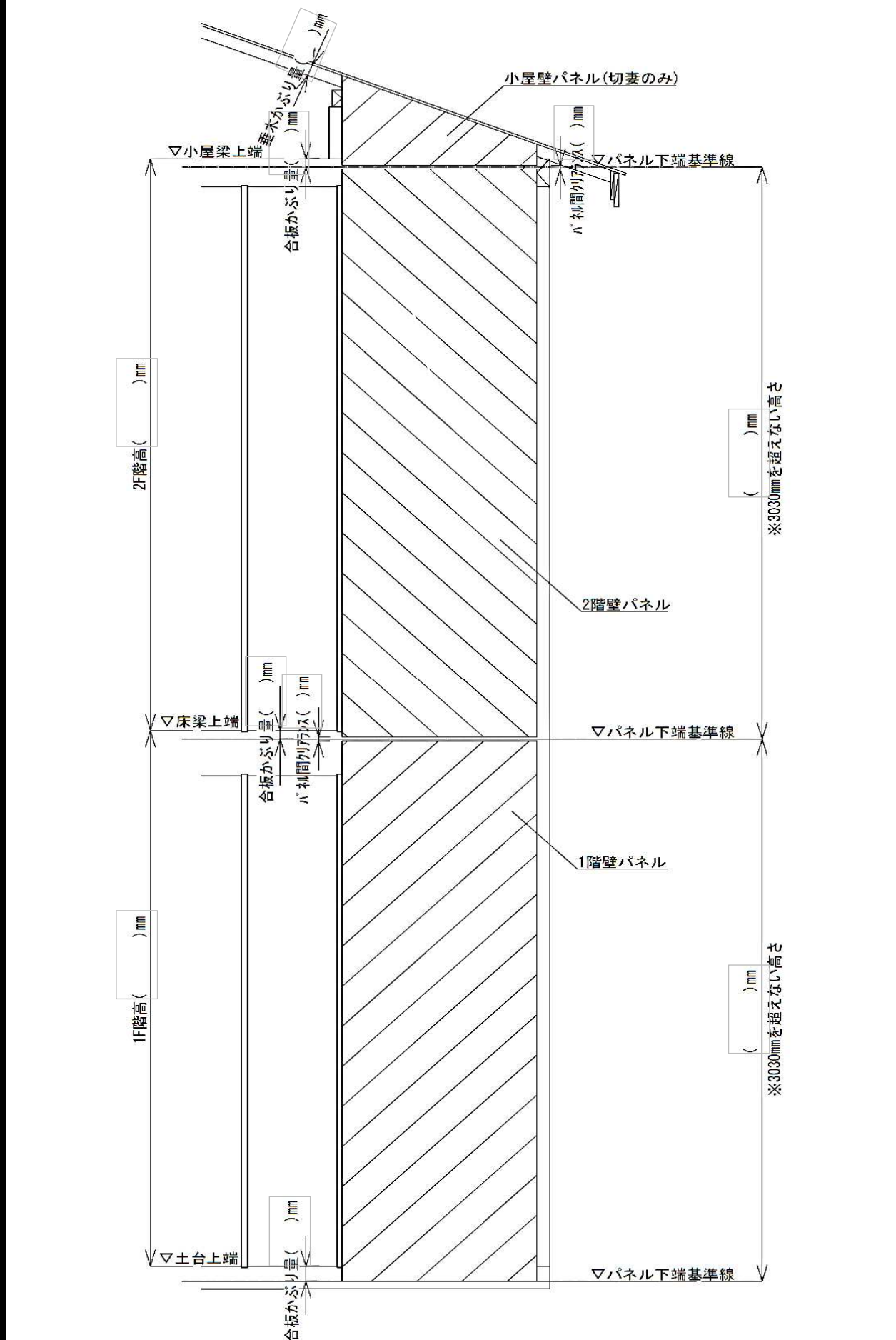
* 際間柱や間柱受けが、金物、筋違と干渉する部分は現場調整をお願いします。
* 破風・鼻隠しのプレカットが必要な場合は打合わせが必要です。
* 羽柄材でプレカット不要の部材が、材料のみ納品必要な場合、該当項目※に“材のみ要”と書き添えて下さい。
[社内事項:プレカットより材のみ納品 不要・要]

● 羽柄材加工可能範囲 全長 300mm~6000mm ● 羽柄材の中間加工は、両端部300mm以下は加工出来ません。

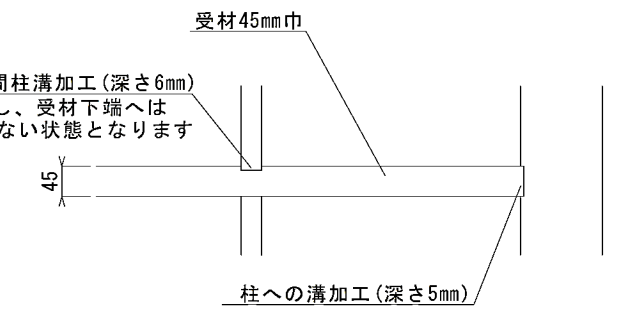
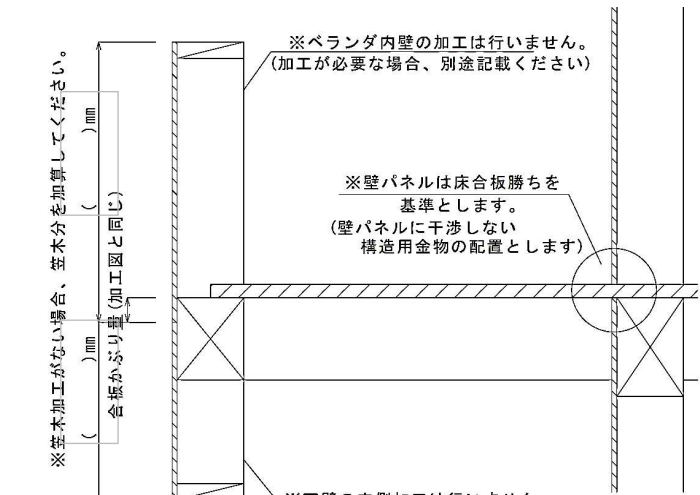
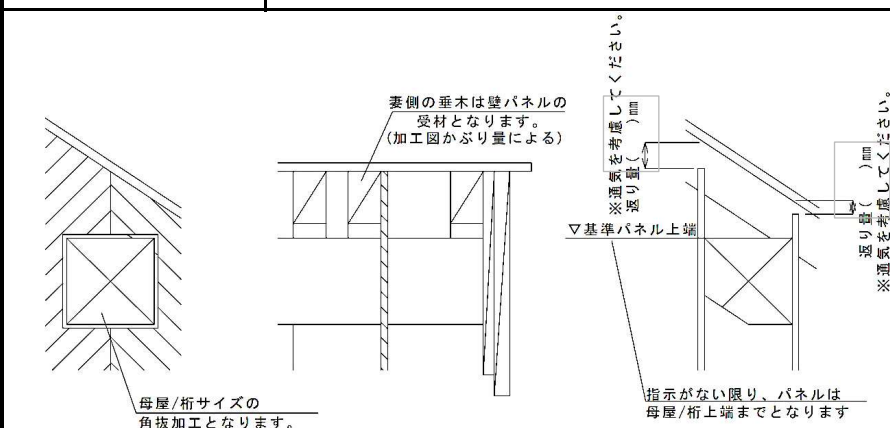
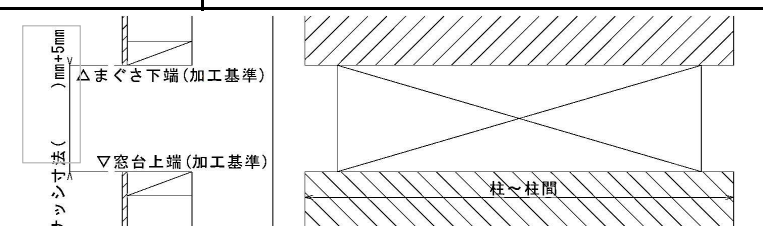
* 柱部分は角抜きされます。
* 割付方法は、指定がない限り千鳥貼りいたします。但し、間崩れの物件では一部そろいとなる場合があります。
* 床合板を現しにする場合は打合わせが必要です。

お客様名	ふりがな	
現場名	ふりがな	
搬入予定		
パネル素材	サイズ	910×3030×()mm ※階高によっては、Hサイズ変更可能
	樹種	ラージ(構造用)・ダイライト・ノボパン ※構造用合板を基準とする ※合板種類で加工賃が変わります ※加工ができない合板もあります
出隅パッキン	要 ・ 不要 ※加工の有無で加工賃が変わります	
出隅パッキン	 <p>※出隅パッキンは基本Y方向勝ちとします。 基本寸法=52.5(60)mm+9(12)mm</p>	
入隅部	受材加工 要 ・ 不要 受材は巾45mmとなります	
受材(隙間柱)	 <p>※入隅部の合板は両端返りを基準とします。 (返り量は合板厚さによる)</p>	
受材(隙間柱)	 <p>※シャクリ部の合板は基準X方向勝ちとします。 (返り量は合板厚さによる)</p>	
その他の接合納まり(下へ詳細をご記入ください)		
注意事項		

壁パネルの加工基準位置



※化粧壁パネルの加工は基本いたしません
 ※基準サイズの異なる合板の混在加工はいたしません(910×3030と910×2730との混在など)
 ※加工後の東西南北への梱包わけはできません(山の中での梱包わけとなります)
 ※納まりが複雑な場合、打ち合わせが必要となります

壁パネルが3030mmを超える階高	パネル受けとして受材(横木)巾45mmを入れます ※間柱は3m材となります	
	受材端部の柱への溝加工 要 ・ 不要	
	受材への間柱用溝加工 要 ・ 不要	
 <p>受材45mm巾 受材への間柱溝加工(深さ6mm) ※ただし、受材下端へは溝加工がない状態となります 柱への溝加工(深さ5mm)</p>		
バルコニー部	バルコニー壁パネル加工 要 ・ 不要	
※外部の下壁のパネル加工は下図に準ずるものとする		
 <p>※ベランダ内壁の加工は行いません。 (加工が必要な場合、別途記載ください) ※壁パネルは床合板勝ちを基準とします。 (壁パネルに干渉しない構造用金物の配置とします) ※壁加工がない場合、壁木分を加工してください。 ※壁加工がない場合、壁木分を加工してください。(加工図と同じ) ※下壁の内側加工は行いません。</p>		
小屋壁部	小屋壁パネル加工 要 ・ 不要	
 <p>妻側の垂木は壁パネルの受材となります。 (加工図かぶり量による) ※通気性を考慮してください。 ▽基準パネル上端 母屋/桁サイズの角接加工となります。 指示がない限り、パネルは母屋/桁上端までとなります ※通気性を考慮してください。</p>		
開口部	※開口部はまぐさ/台を加工基準とする	
 <p>サッシ寸法()mm+5mm △まぐさ下端(加工基準) ▽窓台上端(加工基準) 柱~柱間 ※方立(建替)間のパネル加工は基本いたしません (加工が必要な場合、綿密な打ち合わせと施工図が必要となります)</p>		